科学研究費助成事業 研究成果報告書



6 月 1 1 日現在 平成 27 年

機関番号: 17701

研究種目: 研究活動スタート支援

研究期間: 2013~2014 課題番号: 25889044

研究課題名(和文)モダニズム建築の再生における インターベンションとオーセンティシティの研究

研究課題名(英文)Study of the intervention and the autheticity in the re-use of the modernmovement

研究代表者

鯵坂 徹(AJISAKA, TORU)

鹿児島大学・理工学研究科・教授

研究者番号:80709527

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文):近年、モダニズム建築(モダンムーブメント)は、その価値が認められて重要文化財や世界遺産となりつつある。それらの建築は、規模が大きく、リビングへリテージとして使い続けることが、保存には不可欠である。しかし使い続けるためには、増築や改築といった改修工事が必要で、増改築により(インターベンション)、その建築の真正な価値(オーセンティシティ)と全体性(インティグリティ)が損なわれてしまう可能性がある。本研究では、国内外の近現代建築の保存再生の事例調査の結果、モダニズム建築の価値と再生期間の考えについて国内外の差異を確認した。また、国内での再生に関する法的、技術的な問題について考察した。

研究成果の概要(英文): The value is accepted, and the modern-movement is becoming an important cultural property and the world heritage recently. Because those buildings are large, it is indispensable for the re-use, revitalization as a living heritage. However, the intervention such as the enlargement and the conversion is necessary, and the authenticity and the integrity of the building may be spoiled by extension or conversion to continue using it.

In this study, I confirmed domestic and foreign differences about value of the modern-movement and the

thought during revitalization period as a result of example investigation into re-use of domestic and foreign close modern architecture. And I about the re-use in the country legal, considered a technical problem.

研究分野: 近現代建築保存再生

キーワード: モダンムーブメント インターベンション インティグリティ オーセンティシティ リビングヘリテージ 法規制 色調 建具

1.研究開始当初の背景

国内では、評価がまだ定まらないため多くの 20 世紀の建築がスクラップアンドビルドの波に飲み込まれ姿を消しているが、海外ではすでに 20 世紀に創られたモダニズム建築が世界遺産として選定されつつある。一方、モダニズム建築の再生事例が少ないため、日本は、制度だけでなく活用のプログラムや保存再生の技術が未だ確立できていないと状況である。

2.研究の目的

研究代表者が国内で実際にかかわった再生事例、近年のモダニズム建築の国内外の再生事例や世界遺産に選定や暫定登録された事例で、リビングへリテージとして使い続けられているモダニズム建築を主とし、その再生の方法について、調査研究し国内外の差異を確認、考察する。

3.研究の方法

既往の研究・著作及び DOCOMOMO での改修報告に関する報告書等と研究代表者が再生を担当した国際文化会館/ライジングサン社宅の再生事例をヴェニス憲章やマドリッド文章に照らして再整理する。これらに並行して、国内事例及び海外事例の一部について調査を実施する。

4. 研究成果

(1) モダンムーブメントの位置づけの相異 日本では、「建築は改修するより更地にし

日本では、「建築は改修するより更地にして建て替える」という考えが社会通念となってしまっている。一方、欧米諸国では、建築は個人の所有物であっても公共の利益が優先し都市のランドマークとして保存されるべきでとの考えで、大きな隔たりが生じている。建築を都市の歴史の一つとして捉えることができない日本では、モダンムーブメントの建築の価値を認め継承するという考えになかなか至っていない。そのため、DOCOMOMOに選定された建築も、危機的

状況や価値を失った建築、解体された建築が多い。改修される場合も美的配慮のない機能の付加(冷暖房機の付加や更新 バリアフリー対策 耐震ブレース等々)のインターベンションにより、オーセンティシティが損なわれてしまう場合が、大部分とある。大規模な増築のインターベンションが実施されている京都会館や東京中央郵便局の事例では、インティグリティまでもが、失われてしまっている。

(2)再生に要する時間軸の相異

ヴィープリの図書館の再生はロシア領内 にあるアルヴァ・アールトの建築を西側諸 国が援助し再生するというプログラムでも あり、20年前後の間、保存再生が継続され ている。また、日本に比べて歴史的建築や モダンムーブメントに対して意識の高い欧 米では、建築を壊すという発想が少なく、 モダンムーブメントをはじめとする建築を 徐々に手を入れて使い続けていくことが一 般的となっている。他方、日本では、耐震 補強の問題があり、保存再生か解体が取捨 選択となり、短期間に大きなインターベン ションにより再生する事例が一般的と解釈 されている。小さなインターベンションを 徐々に施すことは、オーセンティシティを より保ちやすく、経済的負担も分散される ことから、今後は、日本でも使い続けるた めの有効な選択肢の一つとして加えられる ことが望ましい。

(3) リビングヘリテージとインターベンション

歴史的建築を同じ用途で使い続けたときでも、冷暖房をはじめとする機能の付加や改修が必要となる。別表にあげたコルビュジエの設計による一連の建築を確認しても、リビングへリテージとして活用されているペサックの住宅(1925)、スイス学生会館(1932)、マルセイユのユニテダビダシオン(1952)、ラ・トゥーレット(1959)、ブラジル学生会館(1959)等々は、ガラスが複

層ガラスに(一部又は大部分)交換されている。



ペサックの住宅(1925)

一方、凍結保存的な見学用途の建築であるラ・ロッシュ=ジャンヌレ賦(1924 一部)サボォア邸(1931)や居住環境でないロンシャンの礼拝堂(1955)等々ではオリジナルの状態の単板ガラス等が使われている。見学施設として凍結保存されている建築、例えば、トゥーゲントハット邸(1930 世界遺産)等は、オリジナルの形状に全てが修復されている。事例から判断すると、リビングへリテージの場合は、一部の限られた用途(礼拝堂 他)を除き、国内外の相異なく何らかのインターベンションが必要となることが確認される

(4)オーセンティシティと技術的法的課題 アントニン・レーモンドの設計による横 浜のライジングサン石油会社社宅(1929) は、改修開始時に「エレガントな白いキュ ーブ」として横濱新聞等で紹介されたが、 改修工事中にオリジナルの外壁がベージュ 色のはきつけコテ仕上げであったことが判 明し、ベージュの外壁と緑(改修前は濃紺) のサッシュ・バーで竣工した。オリジナル の色調は調査により判明することが多いの で、補修改修(インターベンション)の際 は必ず現状の色調を疑い確認を行い、オー センティシティを確保することが必要であ る。国外のコルビュジエの作品においても、 プラネクス邸(1928)の改修で外装がライ ムストーンの左官材(淡いベージュ色)で

あったことが判明し、コルビュジエ財団の あるラ・ロッシュ = ジャンヌレ邸 (1924) も 2014 年に白色からライムストーンの左 官材に塗り直されている。



プラネクス邸(1928)

外部建具は、建築家の意図が反映されてい るデザイン上貴重な部位である。そのため 当初に近い見付・見込寸法がオーセンティ シティの継承には不可欠である。しかし、 先のリビングヘリテージの部分にあるよう に、居住環境で活用する場合、複層ガラス に改修すると、見付寸法や枠の素材が変更 せざる得ない場合がある。ラ・トゥーレッ ト(1959)では、生活及びバックゾーンの ガラスが一部複層ガラスに改修され、サッ シュの意匠が変更されている。一方、ゾン ネスターレサナトリウム(1931)のように、 極薄複層ガラスがセットできる見込を確保 し、オリジナルの見付寸法とほぼ同様のス チールサッシュを新たに製作している事例 も確認される。国内では、東京中央郵便局 (1931)の外装サッシュがオリジナルの見 付寸法で新たに製作され、複層ガラスの外 装に取り替えられている。この場合、サッ シュのオーセンティシティは継承されてい るが、JP タワー (2012) の増築によりイン ティグリティが失われている。一方、国際 文化会館(1955)本館の保存再生では、オ

リジナルのヒノキの木製建具にアルミの小枠を付加することで複層ガラスに交換し、環境性能を向上させている。こちらの場合は、アルミの小枠寸法が見付寸法に加わり、その部分のオーセンティシティが確保されていないが、サッシュの枠と本体がオリジナルのヒノキの木製建具であるため、質感と素材のオーセンティシティが継承され、インティグリティも継承されていると判断される。

国内の法規制と外装建具の関係を考えると、1970年代以前は排煙の規定がなく、その頃のモダンムーブメントを改修すると、排煙窓が外装のデザインに大きなインターベンションを与えてしまう可能性がある。日比谷図書館(1957)の外装サッシュはスチール製からアルミ製に交換され、さらに排煙窓が付加されているため、本来の端正なサッシュのプロポーションが失われてしまった。このように、保存再生の際の法規制は、そのオーセンティシティとインティグリティに大きな影響を与えてしまう場合がある。

(5)成果のまとめ

国内外では、モダンムーブメントに対する価値が異なることもあり、再生の時間軸に対する考え方が異なっている。このためインターベンションの大きさや期間の考えにも相異が生じている。見学用途の建築と異なり、リビングヘリテージはインターベンションが継続的に生じる可能性が高い。また、色調やサッシュ等の技術的課題は国内外問わず同様の事例が確認された。

建築名	竣工年	利用状況 (用途)	インターベンションの有無等	傷考
フィアット自動車工場(リンゴット)			1995年、大規模なインターベンションにより、	旧用途の自動車工場は建層内で自動車を組立、
イタリア・トリノ	1921	当初用途(自動車工場)からホテル・会議	中庭やホールをつくり、集客的設にリノベー	屋上のテストコースを自力で試験走行してから
設計:ジャコモ・マッテ・トルッコ		場・店舗等に用途変更	ションした。新たに付加された塔屋のガラスの	スロープで地上まで降りてくる動線だった。全
改修設計:レンゾ・ピアノ			立体が象徴的。	体ポリューム、イメージ、スローブ等が解象。
ラ・ロッシュージャンヌレ邸	1924	見学施設・事務室 (コルビュジェ財団) と して利用	見学施設として凍結保存している部分と財団の	2014年にライムストーンの左官材料で注いべ-
フランス・バリ			軌務スペースがある。内外装をオリジナルに戻	ジュ色に根準された。
設計:ル・コルビュジエ			す修復が実施されている。	>1ENBROTIC
ベサックの体室			居住スペースを確保するため多くの住居で1階	各性戸により再生、改修の状況は異なる。当初
フランス・ポルドー	1925	協初用途 (住宅) として利用、一住戸のみ	駐車場(ピロティ)を内部化。サッシュ(複層	より大きな改変(勾配層根や装飾の付加)が実
BH: W. TIPK - ST		見学及び展示として活用されている。	ガラス+アルミ製)の変更等、居住環境の性能	施されてきたが、見学施設(一棟)はオリジナ
201111			を向上するためのインターベンションが実施。	ルに物面されている。
プラネクス部		当初用途(住宅) として利用か、2015年3	外装の色調が白でなく淡いページュ色の左官材	ライムストーンの方官材料で強いベージュ色に
フランス・バリ	1928	月時点では、1階間リ等未利用。	であることが利明し、オリジナルの外錯に修復	修復された。
級計:ル・コルビュジエ			ent.	B-00-17-0
トゥーゲントハット蘇			2010-2012年に改修修復、詳細な調査と機密な	
チェコ・ブルノ	1930	見学施設として利用(世界遺産)	修復が実施された。内外装をオリジナルに戻す	2001年に世界遺産に登録
設計:ミース・ファン・デル・ローエ			修復としてDOCOMOMO等で発表されている。	
サボャア部			有料の見望建物として活用されている。内外は	
フランス・ポワッシー	1931	見学施設として利用	きオリジナルに厚す他復が実施されている。	
設計:ル・コルビュジエ				
ゾンネスターレサナトリウム		当初用途(結核療養所)が開鎖となり、朽	棟毎に修復が進められ、順次、居住施設、見学	
オランダ・ヒルヴァーサム	1931	ち果てていたが、再生し居住施設として再	施設として活用されている。サッシュは新たな	オランダの世界遺産に暫定登録されている
股計:J.Duiker B.Bijvoet J.G.Wiebenga		生し利用されている。	スチールサッシュを押し出し復層ガラス化。	

ファンネレ工場		当初用途(工場)だったが、デザインオ	オリジナルの単板グラス・サッシュ部分は共用	
オランダ・ロッテルダム	1931	フィスや展示、イベント等に活用されてい	スペースとし、その内側にあらたな居住性の高	2014年に世界遺産に登録
股計:Brinkman Van der Vlugt	1931	&	い居室を設ける等、修復に近い改修によりリビ	201641.(15910101.1018
J.G.Wiebenga		P	ングヘリテージとして使われている。	
エンバイア・ステート・ビル			機能更新のためのインターベンション。全ての	
アメリカ・ニューヨーク	1931	業務ビルとして継続利用	窓を複層ガラスに改修し設備機器も更新、環境	ニューヨーク保存法でランドマークに指定され
設計:リッチモンド・H・シュリーブ/ウィ	1931	無格といこしく無効があ	性能を向上させて業務ビルとして使い続けられ	ている.
リアム・F・ラム/アーサー・L・ハーモン			ている	
スイス学生会館			居住性向上のためのインターベンション、諸室	
フランス・パリ	1932	当初用途 (学生費) として利用	は一部保存されているが、他は改修、サッシュ	
設計:ル・コルビュジェ			は交換され複雑ガラス化されている。	
			軽後荒廃していたが1994年ころより、ガラス	大きなガラスファサードはスチールと木で横丘
ヴィーブリの図書館			ファサード、屋上防水、トップライトと順次、	された二重ガラスの構造、20年前に修復された
ロシア・ヴィーブリ	1935	協和用途 (図書館) として利用	オリジナルの修復を目指して改修、当初の姿に	が、劣化が進んでいる。2012年に内部が改修:
設計:アルヴァ・アールト			復元されながらリビングへリテージとして使用	れ図書館機能を一時停止されていた。
マルセイユのユニテダビダシオン			住宅部分は所有者により改修されているが、オ	
フランス・マルセイユ	1952	当初用途(共同住宅・店舗)・ホテル・展	リジナルに近いインテリアで使い続けられてい	複層ガラスの部分もあるが、部位により改修さ
験計:ル・コルビュジエ		示として利用	る性戸もある。店舗・ホテルも営業している。	オリジナルかは未確認。
イエール大学アート・ギャラリー			カーンの原設計の意図を反映させながらイン	2006年の改修の後、2011年に旧ギャラリーと
アメリカ・ニューヘブン	1953	大学学習的設がなくなり全難展示施設とし	ターベンション (2006年、20011年) が実施さ	接続する部分が改築され、3つの接が一体とな
設計:ルイス・カーン	1,500	て利用されている	れ、全館ギャラリーへ改修された。	り回遊性のあるギャラリーとして再生。
ロンシャンの礼拝堂			敷地内に修道士の施設、チケット/売店施設が	
プランス・ロンシャン	1955	当初用途 (教会) として利用	建設された。礼拝堂は、オリジナル形態で使い	新しい的設建設時に、ロンシャン礼拝堂の通り
設計:ル・コルビュジェ	1955	and the country of th	続けられている。	に影響が生じるため賛否が問われた。
ラ・トゥーレット	_		現在も修道院として利用されており、修道士の	
フランス・リヨン	1959	当初用途 (修道院) として利用	居住・サービス部分等、必要に応じ改修、礼拝	サービス部分等、複雑ガラスに改修。
数計:ル・コルビュジエ	1,939	moves (MIRRO CUCHIN	居住・サービス部分等、必要に応じ成像。礼拝 参等仕当初の用籍で組合されている。	- こへのガラ、保管ガラスに収集。
プラジル学生会館	_		機能更新・居住性向上のためのインターベン	
フランス・パリ	1959	当初用途 (学生者) として利用	ションが実施されているが1階級リ、外籍は当	複雑ガラスの部分もあるが、部位により改修た
	1939	当他用題(子生物)として利用		オリジナルかは未確認。
設計:ル・コルビュジェ	-		初の姿が継承されている。	
イエール大学英国美術研究センター				
アメリカ・ニューヘブン	1974	当初用途 (英術館) として利用	機能更新のため2015年より再生工事中	
設計:ルイス・カーン				
東京大学総合研究博物館小石川分館			2001年に展示施設として改修、エレベーター機	
日本・東京 (文宗)	1876	施設として利用、当初は東京医学校本館と	を増築[東京大学キャンパス計画室+工学部建築	
設計:工部省営補助 西郷元善		して利用。	研究室(基本)、永山建築設計事務所(実施)]	川に移築され1970年に重要文化財。
東京駅		当初用途(駅・ホテル)にギャラリーが付	3階建てへの復元と免責化 (2012年) 、内部の	大戦で内部が絶失、終戦後すぐ3階建てを2階級
日本・東京 (丸の内)	1914	加され利用、構成は変わっている(ホテル	活用方法の変更にともなうインターベンション	てとして再生 (1947年) され60約年間利用さ
設計: 医野会吾		用途部分が拡張して駅施設が縮小)	が、一気に実施された。	れた、重要文化財。
ライジングサン石油会社社宅		当初用途(単身寮:10人の速記者のため	住宅から大学施設に用途変更になった際、研究	2009年に外談政務、その際、白色からオソジ:
(フェリス女学院10号館)	1929	のフラット)をその後家族寮(4戸)とし	室梯の小部屋としてオリジナルの間仕切りのま	ルのページュ系の外壁に修復。DOCOMOMO
日本・横浜 (山手)	1929	て利用。1977年より大学の校舎として利	ま活用されていた。外部のみ改修され内部の活	Japan 150
接針:アントニン・レーモンド		用、現在は緑面移転のため末利用。	用が検討されている。	
東京中央郵便局			JPタワー建設のため過学が解体、一部が再生	残存している部分は外装タイルの貼り替え、
		域郵便用として存続している。現存部は大	(2012年) - 免罪レトロフィットの際、中央部	サッシュの更新が実施されている。サッシュは
日本・東京 (丸の内)	1931	現野使用として存続している。現存認は大		プランユの更新が実施されている。 サッシュは
日本・東京 (丸の内) 級計: 古田鉄郎	1931	現象性格として存在している。 現存的は大 部分が音楽施設となっている	が解体され南翼部分の角度を変えて復元。	サッシュの更新が実施されている。サッシュは 見付寸法等を継承しながら程度ガラス化。
日本・東京 (丸の内)	1931			見付寸法等を継承しながら復居ガラス化。
日本・東京 (丸の内) 級計: 古田鉄郎	1931		が解体され南翼部分の角度を変えて復元。	見付寸法等を継承しながら復居ガラス化。 増築あり 内外共、当初のデザインが保全され
日本・東京(丸の内) 級計:古田総総 親辺朝記念会館(宇舒市民館) 日本・山口(宇朝)		部分が音楽挑談となっている	が解体され南翼部分の角度を変えて復元。 機能向上のための理禁のインターペンションが	見付寸法等を継承しながら復居ガラス化。 増築あり 内外共、当初のデザインが保全され
日本・東京(丸の内) 級計:吉田参郎 線辺執院水会館(宇部市民館) 日本・山口(宇部) 級計:村野都各		部分が音楽挑談となっている	が解体され南翼部分の角度を変えて復元。 機能向上のための理禁のインターペンションが 実施されているが、大部分は当初のまま保全さ れている。	見付寸法等を継承しながら複磨ガラス化、 増築あり 内外共、当初のデザインが保全され ている。1976年1992年頃に改修工事。重要文 化財 DOCOMOMO Japan 20
日本・東京 (丸の内) 設計:金間総総 現立株に本会館 (宇経市民館) 日本・山口 (宇部) 設計:村野縣吾 神奈川県立近代美術館	1937	部分が音楽挑談となっている	が解体され高異部分の角度を変えて復元。 機能向上のための環際のインターペンションが 実施されているが、大部分は当初のまま使金されている。 1966年に新館を増築、本館の屋根防水等の改修	見付寸法等を継承しながら復居ガラス化。 増築あり 内外共、当初のデザインが保全され ている。1976年1992年頃に改修工事、重要文 化財 DOCOMOMO Japan 20 重量物の展示と拡張ができないことにより新き
日本・東京(丸の内) 設計: 吉田総総 渡辺駅記念金館 (宇部市民館) 日本・山口 (宇部) 設計: 村野番客 神徳川県立近代美術館 日本・沖奈川 (鎌倉)		部分が商業施設となっている 協利用途 (劇場・集金施設) として利用 協利用途 (英術館) として経統利用。 神奈	が解体され南翼部分の角度を変えて復元 機能等はかための環路のインターペンションが 実施されているが、大部分は当初のまま保全さ れている。 1905年に新館を増展、本館の屋根別水等の改物 が実施され、外観上部(軒線)のデザインが変	見付寸法等を継承しながら機関がラス化。 機関あり、内外共、当初のデザインが保全され でいる。1996年1992年頃に改修工事、重要文 代記 DOCOMOMO Japan 20 重要物の展えた場所ができないことにより新修 が備山に課数され、土地温知のため解体し更利
日本・東京 (丸の内) 設計:金間総総 現立株に本会館 (宇経市民館) 日本・山口 (宇部) 設計:村野縣吾 神奈川県立近代美術館	1937	部分が倉業施設となっている 当初用途 (劇場・集会施設) として利用	が解体され高異部分の角度を変えて復元。 機能向上のための環際のインターペンションが 実施されているが、大部分は当初のまま使金されている。 1966年に新館を増築、本館の屋根防水等の改修	見付寸法等を継承しながら復贈がラス化。 相類あり 内外共、当初のデザインが保全され でいる。1956年1992年頃に改修工事、重要文 化財 DOCOMOMO Japan 20 重要物の展示と経験ができないことにより新修 が備山に課設され、土地返却のため解体し更利 化の方針だったが、再利用に向けた再検討がそ
日本・東京(丸の内) 設計: 吉田総総 渡辺駅記念金館 (宇部市民館) 日本・山口 (宇部) 設計: 村野番客 神徳川県立近代美術館 日本・沖奈川 (鎌倉)	1937	部分が商業施設となっている 協利用途 (劇場・集金施設) として利用 協利用途 (英術館) として経統利用。 神奈	が解体され南翼部分の角度を変えて復元 機能等はかための環路のインターペンションが 実施されているが、大部分は当初のまま保全さ れている。 1905年に新館を増展、本館の屋根別水等の改物 が実施され、外観上部(軒線)のデザインが変	見付寸法等を継承しながら機関がラス化。 機関あり、内外共、当初のデザインが保全され でいる。1996年1992年頃に改修工事、重要文 代記 DOCOMOMO Japan 20 重要物の展えた場所ができないことにより新修 が備山に課数され、土地温知のため解体し更利
日本・東京(丸の内) 総計: 古田原総 総計: 古田原総 (日本・山口 (宇部) 総計: 村野郷各 村田 (東部) 総計: 村野郷各 村田 (東部) 総計: 村野郷各 村田 (東部) 総計: 「根部 (東部)	1937	部分が商業施設となっている 協利用途 (劇場・集金施設) として利用 協利用途 (英術館) として経統利用。 神奈	が解体され高層部かの角度を変えて復元。 機能的上のための機能のインターペンションが 実施されているが、大部分は当初のま変保全さ れている。 1906年に能能を増配。本館の機能効本等の故情 が実施され、外観上部(肝臓)のデザインが変 更された。	見付寸法等を継承しながら復贈がラス化。 相類あり 内外共、当初のデザインが保全され でいる。1956年1992年頃に改修工事、重要文 化財 DOCOMOMO Japan 20 重要物の展示と経験ができないことにより新修 が備山に課設され、土地返却のため解体し更利 化の方針だったが、再利用に向けた再検討がそ
日本・東京 (丸の内) 総計: 台間総裁 日本・山口 (宇紹門版際) 日本・山口 (宇紹門版際) 日本・中四十 中の川原口丘代美術館 日本・神田(加) (機能) 総計: 協衛第三 公和中央東柱議案	1937	部分が自翼接股となっている 協和用途(劇場・集金施設)として利用 協和用途(英術館)として提続利用、神奈 川服が鶴興八幡宮から他地して建設した。	が解除され高調節がの角度を変えて電元 機能的上のための環路のインターペンションが 実施されているが、大部分は当路の更ま保全さ れている。 1905年に経過を増振、本能の規模的水等の必然 が実施され、外種上部(特別)のデザインが更 更された。 伝統が実施されているかったためオッグノルの	見付寸法等を継承しながら復贈がラス化。 相類あり 内外共、当初のデザインが保全され でいる。1956年1992年頃に改修工事、重要文 化財 DOCOMOMO Japan 20 重要物の展示と経験ができないことにより新修 が備山に課設され、土地返却のため解体し更利 化の方針だったが、再利用に向けた再検討がそ
日本・東京 (丸の内) 総計: 他認識部 日本・山江 (宇紹市風報) 日本・山江 (宇紹市風報) 日本・山江 (宇紹市風報) 日本・中田 (東南 日本・中田) (集南 田本・中田) (集南 田本・中田) (集南 田本・中田) (北南 田本・南田 (北南) 田本・南田 (北南)	1937	部分が自翼接股となっている 協和用途(劇場・集金施設)として利用 協和用途(英術館)として提続利用、神奈 川服が鶴興八幡宮から他地して建設した。	が報告され職業的かの最後を見て電元 無能のようための職業のインターペンションが 実施されているが、大部分は当初の主意保含さ れている。 いが年に能を増築、本館の提供が不等の状態 が実施され、外観上部(特徴)のデザインが変 更された。 ではかる保証されているかったためオッジ/10の デザインが何をされている。 弘前の本材像素と	現付対法等を継承となが写識的プライと、 機能等が対象を持ち、 である。1994年、日本のデザインが保全すで、 である。1994年の日本の主義をは、 化計 DOCKOMOM Japan 20 重要等の研究とは関するないとしたより解 が増加して開発され、土地高知のため制作しまり 化の方針だったが、再利用に向けた再発的が というため、再利用に向けた再発的が というため、これには、 との方針だったが、再利用に向けた再発的が というため、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので
日本・東京 (九の内) 総計: 台間総制 総計: 台間総制 日本・山口 (中級) 総計: 付野都吾 种別側位近代機能管 日本・神奈川 (鎌倉) 総計: 成東軍三 知料中央市成議集 日本・南奈 (弘州)	1937	部分が自翼接股となっている 協和用途(劇場・集金施設)として利用 協和用途(英術館)として提続利用、神奈 川服が鶴興八幡宮から他地して建設した。	が解除され高度部分の高度を見えて電圧。 機能的上からが開業のイソターベンションが 無効されているが、大部分は当初の音音発音されている。 行の体には整合単低、半線の提問が等の対策 が実地され、外観上部(評制)のデザイング変 更考れた。 場所の実施されている。と述の小れためのリフトルの デザインが使まされている。と述の小れ作者を上 (以前)制度別の機能が提出のデザイン、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、と、を	限付け返客機能となが必需解析ラス化。 電路の 9 円外は、間部のデザイン保険ささ ている。1996年1992年間に接手車、重要 化材 DOCOMMO Japan 20 重要時間間を足能が支充してことにより経 が進址に接近され、土地温かのた機能にあり でかまから大力を、自然に関係に向けた機能は対 われている。DOCOMMO Japan 20 世間を対している。
日本・東京 (外の内) 助計:新聞報報 日本・山江 (学師刊版報) 日本・山江 (学師刊版報) 日本・山江 (学師刊版報) 日本・中田(日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本日本	1937 1951 1952	部分が前葉開設となっている 基和用途 (前端・集金施設) として利用 益初用途 (美術館) として開始利用、特容 川級が構製入機管から増地して建設した。 当初用途 (学校講覧) として継続利用	969年1年成長が90元後を発えて第三 都衛生し立たの意味とフラーベンショング 第18年れているが、大部分は当初の変を発金さ 行りの他に対象を推進、本権の登録的からの改善 978年度も、外親上が(旧前)のデザインが反 東古れた。 電便が実施されているかったのかイングタ アイインが使さられている。当前の本体標を上 は「以前に関係の参加的実施のデザイン (本工等原本とり間のの際を、企業のであり、 1979年に参照的。	現付対法等を継承となが写識的プライと、 機能等が対象を持ち、 である。1994年、日本のデザインが保全すで、 である。1994年の日本の主義をは、 化計 DOCKOMOM Japan 20 重要等の研究とは関するないとしたより解 が増加して開発され、土地高知のため制作しまり 化の方針だったが、再利用に向けた再発的が というため、再利用に向けた再発的が というため、これには、 との方針だったが、再利用に向けた再発的が というため、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは、 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本のでは 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので 日本ので
24 - 東京 (40-07) 新で: 1988年 超級配合金額(守持可援助) 日本・上口(原物) 日本・上口(原物) 日本・上口(原物) 日本・日本 (日本) 日本・日本 (日本) 日本・日本 (日本) 日本・日本 (日本) 日本・日本 (日本) 日本・日本 (日本) 日本・日本 (日本)	1937 1951 1952	部分が前葉開設となっている 基和用途 (前端・集金施設) として利用 益初用途 (美術館) として開始利用、特容 川級が構製入機管から増地して建設した。 当初用途 (学校講覧) として継続利用	が保証された機能がの心臓を変えて変形 を開き込むための部のインター・アレンタング 期途されているが、大部分は当初の81年保全 打たいる。 1900年に新聞き物理。本籍の原理的水事の改善 が発生され、利量上部(用節)のデケイン安 変された。 第304年の11年のようにて・042~人ためイリファルの デザイン保全さった。 私町の村間を入 同じ計画医の金田路の機能機がデザイン。 はご知識を大変の金田路の機能機がデザイン。 はご知識を大変の金田路の機能機がデザイン。 1975年に関係し、2000年の発生で第1000年 1975年に開催機能。 2004年の発生第1000年	限付け返答機能人なグラ環解プラル 開催し、別外は、回転してイン内をグライ でした。1994年1992年は、重要文 位置 DOCGMOMO Jogan 7 電影物の場合を表示したより解 が加えば発行。1年期初のた機能しました。 化の方針だったが、単純物における解析があ と対している。DOCGMOMO Jogan 70 登録的など、単純物における解析があ 登録的など、単純物における解析があ と呼吸がある。 登録的など、単純物における解析があ ののCOMOMO Jogan 10 のCOMOMO JO
(14 - 東京 (Aport) (15 - 中の) ((15 - 中の) ((15 - 中の) (15 - 中の	1937 1951 1952	部分が海軍機能ともっている 製物用途(原稿・集金物的)として利用 型物用途(原稿的)として利用 製物用途(原稿的)として利用 製物用途(原稿的)として利用 製物用途(学的規定)として利用。	が協立する機能がの出産を見ててを正 都能力したの必要が、ファーケンシング 制度されているが、大部分は当初の主音を含さ 行わられているが、大部分は当初の主音を含さ 行わられているが、大型上部(押卸)のデザインが及 受けるます。大型上部(押卸)のデザインが 受けるます。大型上部(押卸)のデザインが ではりに同じの合きのの対象を表す。 ではりに同じの合きのが表すます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりまます。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりまままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。 ではりままする。	限付す場合を編集人立分の業別プラス化、 開業は、円代末、回転のデザイン研究が、 では、一般では、一般では、一般では、一般では、 最適かの展示と対象ができない。とはより経 が起いに関連して、土地高いのたが無しまか が起いに関連して、土地高いのたが無しまか が起いに関連して、土地高いのたが無しまか が起いに関連して、土地高いのたが無しまか が起いに関する。 登録者所でもは、金田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田
日本・東京 (人の内) 参生: 1988年 198	1937 1951 1952	部分が前葉開設となっている 基和用途 (前端・集金施設) として利用 益初用途 (美術館) として開始利用、特容 川級が構製入機管から増地して建設した。 当初用途 (学校講覧) として継続利用	が報告する機能の必要を支えて変形。 取扱されたのない。 取扱されたのない。 取扱されたのない。 大部分は前ののままが会 「何必年に発生物態、手能の機能が多や心物 でがませた。「現在上部 (1980 のラヤインのが を対した。 ながないました。 ながなの表したい。もかったのかがりが ながなの表したい。もかったのかがりが ではないました。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	第2寸世帯等地域上の分配機能分との 地域か、例外集、開始等の子が必需を対す でした。1994年の日本の記述の 単型の日本の記述のとは 単型の日本の記述のとは 単型のには関立で、主ないと 単型のには関立で、主ないと をしたがあります。 をしたがあります。 日本の記述をは、主ないと 日本の記述をは、主ないと 日本の記述をは、主ないと 日本の記述をは、主ないと 日本の記述をは、 日本の記述をは、 日本の記述をは、 日本の記述をは、 日本の記述をは、 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本の記述と 日本
대 * 보통 (April) 10 * 1 * 100 HBM 전대 10 * 100 HBM 전대 100 HBM 전	1937 1951 1952 1955	850分の開発機能となっている 証別用途(原稿・集金機能)として利用 証別用途(原稿)として機能的は、特徴 別用が開展(展現金)として機能的は、特徴 影別用途(原始機能)として機能的機 施制用途(原始)をして関係。 総別用途(分野化)として利用。	が認当を指数形のの概要を表で変形。 即動きないたののであり、一切というというというというというというというというというというというというというと	限付す場合を編集人立分の業別プラス化、 開業は、円代末、回転のデザイン研究が、 では、一般では、一般では、一般では、一般では、 最適かの展示と対象ができない。とはより経 が起いに関連して、土地高いのたが無しまか が起いに関連して、土地高いのたが無しまか が起いに関連して、土地高いのたが無しまか が起いに関連して、土地高いのたが無しまか が起いに関する。 登録者所でもは、金田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田
日本 - 東京 (ApAP) 参加 : 1988年 1988年 1989年 1988年 1988年 1989年	1937 1951 1952 1955 1956 1958	部分が需要機能ともっている 証明期間 (20年 東島戦略) として利用 証明期間 (20年 東島戦略) として利用 証明期間 (20年 東島戦略) として開発行機 (20年 東島戦略) (20年	が認生で指数形の内臓を見えて変形。 無数点でならめ、大部分は前の変素を含む。 数点では、ならり、大部分は前の変素を含む。 だいた。 いたいた。 いたいた。 のなったが、大部分は前の変素を含む。 をされたいた。 をされたいた。 をなったが、大部分が構造。 では、 は、 では、 は、 では、 では、 では、 では、	窓付加速を製化したりの連携サラル化 地域から、伊利木・配向サインの発生されている。 19年間 - 1984年、日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日
日本 - BM (A/PAT) ## : 18888年 ## (A/PAT)	1937 1951 1952 1955	部のが開催機能となっている 証別用途(原稿・集合機能)として利用 証別用途(原稿)をして開発的間、特徴 川路が開発(確定から物格して課款した。 監別用途(特別集留)として報酬行用。 証別用途(特別集留)として利用。 総別用途(仲別)として利用。 総別用途(仲別)として利用 業別用途(仲別)として利用 業別用途(仲別)として利用 業別用途(仲別)として利用 業別用途(仲別)として利用	が報告を指数的の概要を表で変更。 都設立のための場合ので、アーマンドンドンドンド 都設されている。 がは、大部分は前のの変更が会 がないる。 がは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	窓付加速を製化したりの連携サラル化 地域から、伊利木・配向サインの発生されている。 19年間 - 1984年、日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日
134 - BM (APPA) 150 : 1500 MM 2010 MM (150 MM) 2011 MM (150 MM)	1937 1951 1952 1955 1956 1958	部分が需要機能ともっている 証明期間 (20年 東島戦略) として利用 証明期間 (20年 東島戦略) として利用 証明期間 (20年 東島戦略) として開発行機 (20年 東島戦略) (20年	が報告では、日本の主義の主義の主義の主義の主義の主義の主義の主義の主義の主義の主義の主義の主義の	第四寸数率を終したから返開するため、 配数か、内外は、配面でするのです。 でした。打ち込みでは、日本では、ことでしていません。 自動での自然のと認めて、自然でしていません。 自動での自然のと認めて、自然でしていません。 自動での自然のと認めて、自然でしていません。 自然のは、経営は、「生活のの心の情報」とあ にの方がありたが、向性性に、同かながありから のであるが、自然でしていません。 他のの他の自然のは、自然でしていません。 他の認識を中央地域を必要がある。 の必要が、中央地域を必要がある。 の必要が、中央地域を必要がある。 の必要が、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要があるが、中央地域を必要がある。 ののであるが、中央地域を必要があるが、中央地域を必要があるがあるがある。 ののであるが、中央地域を必要があるが、中央地域を必要があるが、中央地域を必要があるがあるが、中央地域を必要があるが、中央地域を必要があるが、中央地域を ののであるが、中央地域を ののであるが、中央地域を ののであるが、中央地域を ののであるが、中央地域を ののであるが、中央地域を ののであるが、中央地域を ののであるが、中央地域を ののであるが、中央地域を ののであるが、中央地域を ののであるが、中央地域を ののであるが、中央地域を ののであるが、中央地域を ののであるが、中央地域を ののであるが、中央地域を ののであるが、中央地域を ののであるが、中央地域を ののであるが、中央地域を ののであるが、中央地域を ののであるが、中央地域を ののであるが、中央地域を ののであるが、中央地域を ののであるが、中央地域を ののであるが、中央地域を ののであるが、中央地域を ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののであるが、 ののでな ののでな
日本・事故 (人の内) 中部 : 全回路時 取回除る金融 (子中月間日) 砂・・日間 (中部) 切・・中部 (中部) ボー・中部 (地) 砂・・日間 (中部) ジャ・・中部 (中部) ロエ・・中部 (日本) ロエ・・中部 (日本) ロエ・・中部 (日本) ロエ・・中部 (日本) ロエ・・中部 (日本) ロエ・・日本 (日本)	1937 1951 1952 1955 1956 1958	部分が需要組役となっている 証別用途 (原稿・集金施設) として利用 証別用途 (原稿・集金施設) として総制作用、特別 証別用途 (原稿) として総制作用、特別 証別用途 (保管) として利用 証別用途 (保管) として利用 証明的・経済を持定してからしている。	が報告を指数的の指数を表すである。 動態上のための場所のようで、からいました。 動きたでしたり、大部分は初かますが会 形式をしたり、大部分は初かますが会 がから、大部分は初かますが会 がから、大部分は初かますが会 を発生れ、発生は「味か のデザインが変 まされた。 「は、一部であるリンノルか のまの体験として、もかったれたのリンノルか のまの体験として、もかったれたのリンノルか のまではまして、もかったれたのリンノルが のまでは、大学・シンスを登場。 「は、一部である。ままで、一部である。ままで一部である。ままで、一部である。ままで、一部である。ままで、一部である。ままでは、インドルがないまでは、ままで、 にして、アレンソルで、日本のは、ままで、 にして、アレンソルで、日本のは、ままで、 にして、アレンソルで、日本のは、ままで、 にして、アレンソルで、日本のは、ままで、 にして、アレンソルで、日本のは、ままで、 にして、アレンソルで、日本のは、ままで、 にして、アレンソルで、日本のは、 にして、アレンソルで、日本のは、 にして、アレンソルで、 のままで、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないため、 できないないないないないないないないないないないないないないない	第2寸世界等級地上の少名機関ラス化。 地震が、月外路、地域では一般では、 でした。19年4年の日本の公司のは、 最初の場合とは同じてきないとことは、 最初の場合とは同じてきないとことは、 最初の場合とは同じてきないとことは、 最初の場合とは同じてきないとことは、 ののこのははは異なれ、上のないの人の機能に表す。 ののこのはの人の機能に表する。 ののこのはののでは、 ののこのは、 ののこのは、 ののこのは、 ののこのは、 ののこのは、 ののこのは、 ののこのは、 ののこのは、 ののこのは、 ののこのは、 ののこのは、 ののこのは、 ののこのは、 ののこのは、 ののこのは、 ののこのは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、 ののでは、
대표 * BM (APPA) 10 : 10 BM (APPA) 전체보드스트 (FPAPA) 전체보드스트 (FPAPA) 10 : 14 (FPAPAA) 10 : 14 (FPAPAA) 10 : 14 (FPAPAA) 10 : 14 (FPAPAAA) 10 : 14 (FPAPAAAA) 10 : 14 (FPAPAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAA	1937 1951 1952 1955 1956 1958	部のが開催機能となっている 証別用途(原稿・集合機能)として利用 証別用途(原稿)をして開発的間、特徴 川路が開発(確定から物格して課款した。 監別用途(特別集留)として報酬行用。 証別用途(特別集留)として利用。 総別用途(仲別)として利用。 総別用途(仲別)として利用 業別用途(仲別)として利用 業別用途(仲別)として利用 業別用途(仲別)として利用 業別用途(仲別)として利用	が報告を指数形がの指数であるである。 新聞きたからの場合のである。 新聞きたから、大部分は前の点を音を含 形式をたべる。大部分は前の点を音を含 下でいる。 「かないこれを対象します。 を表します。 を表します。 では、大型には、下型には、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 で	第四寸指導を輸出したから連携サラルと、 配数か、内外は、高級サインの学校では、 でした。1974年の1974年に会ます。最初で 日本での場合のと認めて、それいと、ととよりが 日本での場合とは同じてきないと、ととよりが 日本での場合とは同じてもないと、ととよりが 日本での場合とは同じてもないと、まとまりが 日本での場合とは同じてもない。 日本でのは、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本で
日本・東京 (人の中) ※ 1 - 1888年	1937 1951 1952 1955 1956 1958 1957	窓の付加 実施配とらっている 起用用点(原稿・集金施配)として利用 基出用点(原稿・集金施配)として利用 は同様の作用といる。 を開発して発見した。 を開発して発見した。 を開発して発見した。 を開発して発見した。 を開発して発見したで利用 を開発して発見したで利用 を開発して発見したで利用 を開発して発見したで利用 を開発して発見したで利用 を開発して発見したで利用 を開発して発見したで利用 を開発して発見したで利用 を開発して発見して発見しませた。 を開発して発見して発見しませた。 を開発して発見して発見しませた。 を開発して発見しませた。 を開発して発見しませた。 を関係して表見しませた。 を関係して表見しませた。 を関係して表見しませた。 を関係して表見しませた。 を関係して表見しませた。 を関係して表見しませた。 を表見しませた。 を表記しませた。 を表記しませた。 を表記しませた。 を表見しませた。 を表見ませた。 を表見しませた。 を表見ませた。 を表見ませた。 を表見ませた。 を表見ませた。 を表見ませた。 を表見ませた。 を表見ませた。 を表見ませた。 を表見ませた。 を表見ませたたませた。 を表見ませた。 を表見ませたませた。 を表見ませたませた。 を表見ませたませた。 を表見ませたませた。 を表見ませたませた	が設立と指数部分の指定を入て電子。 都設されている人、大部分は前の主意を含む。 不力でいる人。 が成立した、実施とは、一般の主意の主意を含む。 では、一般の主意の主意を表し、一般の主意の主意を表し、 では、一般の主意の主意を表し、 では、一般の主意の主意を表し、 を表した。 は、一般の主意の主意の主意の主意の主意の主意の主意の主意の主意の主意の主意の主意の主意の	第2寸支持を観えなりる場面が3人化 地域から、内外は、他のですくか可能させ、 でした。1994年の日本のでは、ことによりませ 最初から原とは同じてきないこととといませま 最初から原とは同じてきないこととといませま 他の方面がたりたが、美術性に向けた有様目が やの方面がたりたが、美術性に向けた有様目が があるできょう。一個問題を必要を のCOMMON Jepen 100 のCOMMON Jepen 100 のの面をでは、一個問題を必要を の問題を学生を必要を の問題を学生を のの面をは、一個問題を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を ののの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のののの面を ののののののののの。 のののののののののの。 ののののののののの。 のののののののの
대표 * BEK (APON) ## : 1888## ## (APON) ## : 1888## ## (APON) ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## :	1937 1951 1952 1955 1956 1958	部の付加資産組分となっている 製物用金(原稿・集金施助)として利用 製物用金(原稿・集金施助)として利用 製物用金(原稿)として締結所は、対象 別用の利用人場から合物をして課題した。 製物用金(原稿)として利用。 製物用金(原稿)として利用。 製物用金(原稿)として利用。 製物用金(原稿)として利用。 製物用金(原稿)として利用。 製物用金(原稿)として利用。 製物用金(原稿)として利用。 製物用金(原稿)として利用。 製物用金(原稿)として利用。 製物用金(原稿)として利用。 製物用金(原稿)として利用。 製物用金(原稿)をして利用。 製物用金(原稿)をして利用。 製物用金(原稿)をして利用。	が報告を指数的の機能を入て電影。 即能力点のための場合で、一でデンタング 取またでしたが、大部分は前の点を開発し でしている。 「からかったが、大部分は前の点を開発し でしている。 「からかったが、大部分は前の点を までれる。 でしている。 は、一では、一では、一では、一では、一では、 は、 は、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に	第四寸指導を輸出したから連携サラルと、 配数か、内外は、高級サインの学校では、 でした。1974年の1974年に会ます。最初で 日本での場合のと認めて、それいと、ととよりが 日本での場合とは同じてきないと、ととよりが 日本での場合とは同じてもないと、ととよりが 日本での場合とは同じてもないと、まとまりが 日本での場合とは同じてもない。 日本でのは、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本で
日本・東京 (人の中) ※ 1 - 1888年 (大の中) ※ 1 - 1888年 (大学中が40) ※ 1 - 1888年 (大学中が40) ※ 1 - 1888年 (大学中が40) ※ 1 - 1888年 (大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大学・大	1937 1951 1952 1955 1956 1958 1957 1958	部の付加 実施配となっている	が設定する情報が必要を含まるである。 動意されたの名の場合のよう。 動意されたの名の場合のよう。 動意されたの名のよう。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたりた。 がいたりた。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がったりたった。 がったりた。 がったりたった。 がったりたった。 がったりたったった。 がったった。 がったった。 がったった。 がった	第2寸支持を観えなりる場面が3人化 地域から、内外は、他のですくか可能させ、 でした。1994年の日本のでは、ことによりませ 最初から原とは同じてきないこととといませま 最初から原とは同じてきないこととといませま 他の方面がたりたが、美術性に向けた有様目が やの方面がたりたが、美術性に向けた有様目が があるできょう。一個問題を必要を のCOMMON Jepen 100 のCOMMON Jepen 100 のの面をでは、一個問題を必要を の問題を学生を必要を の問題を学生を のの面をは、一個問題を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を ののの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のの面を のののの面を ののののののののの。 のののののののののの。 ののののののののの。 のののののののの
日本 - BM (人の内) 10 : 1 : 10 10 10 10 10 10 1	1937 1951 1952 1955 1956 1958 1957	部の付加資産組分となっている 製物用金(原稿・集金施助)として利用 製物用金(原稿・集金施助)として利用 製物用金(原稿)として締結所は、対象 別用の利用人場から合物をして課題した。 製物用金(原稿)として利用。 製物用金(原稿)として利用。 製物用金(原稿)として利用。 製物用金(原稿)として利用。 製物用金(原稿)として利用。 製物用金(原稿)として利用。 製物用金(原稿)として利用。 製物用金(原稿)として利用。 製物用金(原稿)として利用。 製物用金(原稿)として利用。 製物用金(原稿)として利用。 製物用金(原稿)をして利用。 製物用金(原稿)をして利用。 製物用金(原稿)をして利用。	が報告を指数的の機能を入て電影。 即能力点のための場合で、一でデンタング 取またでしたが、大部分は前の点を開発し でしている。 「からかったが、大部分は前の点を開発し でしている。 「からかったが、大部分は前の点を までれる。 でしている。 は、一では、一では、一では、一では、一では、 は、 は、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に、 に	第四寸数率を組入のから機関サラルと、 配数か、内外は、配面やアナンの学校でしている。 19年4年のサイナの学校に必要である。 でした。 19年4年の日本の地の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の
日本・東京 (人の中) ※ 1 - 1988年 (大の中) ※ 1 - 1988年 (大学中が40) ※ 1 - 1987年 (大学中が40) ※ 1 - 1987	1937 1951 1952 1955 1956 1958 1957 1958 1959 1960	部の付加資訊配となっている 起間用途(回帰・集金製型)として利用 並加用途(回帰・集金製型)として利用 並加用途(原帰・集金製型)として製料の場合 を取用途(原卵が基準)として製料の場合 基形用途(原卵が基準)として利用 並加用途(原卵が基準)として利用 並加用途(原卵が)として利用 並加用途(原卵が)として利用 並加用途(原卵が)として利用 並加用途(原卵が)として利用 並加用途(原卵が)として利用 連加・	が設定する情報が必要を含まるである。 動意されたの名の場合のよう。 動意されたの名の場合のよう。 動意されたの名のよう。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたした。 がいたりた。 がいたりた。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がいたりたった。 がったりたった。 がったりた。 がったりたった。 がったりたった。 がったりたったった。 がったった。 がったった。 がったった。 がった	第四寸数率を組入のから機関サラルと、 配数か、内外は、配面やアナンの学校でしている。 19年4年のサイナの学校に必要である。 でした。 19年4年の日本の地の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の大阪の
日本・東京 (人の中) 10年 - 10年 (人の中) 10年 - 10日 (日本) 10日 - 10日 (日本)	1937 1951 1952 1955 1956 1958 1957 1958	部の付加 実施配となっている	が報告では、日本の主義の主義の主義の主義の主義の主義の主義の主義の主義の主義の主義の主義の主義の	第四寸振音を終したから返掘サラル化、 原型からから、高からですどの学品です。 でした。1994年の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の
대표 - BM (APPI) 100 : 100 BM (1997 MM) 200 IMA 200 AM (1997 MM) 201 : 140 PM (1998 MM) 201 : 140	1937 1951 1952 1955 1956 1958 1957 1958 1959 1960	部の付加資訊配となっている 起間用途(回帰・集金製型)として利用 並加用途(回帰・集金製型)として利用 並加用途(原帰・集金製型)として製料の場合 を取用途(原卵が基準)として製料の場合 基形用途(原卵が基準)として利用 並加用途(原卵が基準)として利用 並加用途(原卵が)として利用 並加用途(原卵が)として利用 並加用途(原卵が)として利用 並加用途(原卵が)として利用 並加用途(原卵が)として利用 連加・	が報告を指数的の概要を入て電子。 取扱したのの場合では、大型の場合では、大型の場合では、大型の場合では、大型の場合では、ないでいる。 でいる。 「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いないない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いない」は、「いないない」は、「いないないないないないないないないないないないないないないないないないないな	第四寸振音を終したから返掘サラル化、 原型からから、高からですどの学品です。 でした。1994年の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の
日本・東京 (人の内) 10年 - 10年 (人の内) 10年 - 10日 (日本) 20日 (日本) (日本) (日本) 20日 (日本) (日本) 20日 (日本) (日本) 20日 (日本)	1937 1951 1952 1955 1956 1958 1957 1958 1959 1960	部の付加 実施配とらっている 起用用は「原稿・集金施型)として利用 基出用は「原稿・集金施型)として利用 は同様の構作・集金施型)として利用 を開発して発生した。 を開発して発生したで利用 を開発して発生したで利用 を開発して発生して利用 を開発して発生して利用 を開発していて利用 を開発していても、 を用せていても、 を用せていても、 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せ	が出生された関連の企業を入て第2。 地面上の九のの場ので、イン・マン・マン・マン・マン・ 知まれている。 知まれでいる。 がは、大部分は前のままが会 がないる。 がは、大部分は前のままが会 まされた。 からいる。 は、1000年で、大学の大学ので、 まされた。 は、1000年で、大学の大学ので、 は、1000年で、大学の大学ので、 は、1000年で、大学の大学ので、 は、1000年で、大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大	第四十四年を開始したから連携サラルと、 地域から、内外は、一般のサインの発達されている。 1944年の1949年は、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本で
日本 - BM (A/POF) ## : 1888## ## (A/POF) ## 1888## ## (A/POF) ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## #	1937 1951 1952 1955 1956 1957 1957 1958	部の付加資訊配となっている 起間用途(回帰・集金製型)として利用 並加用途(回帰・集金製型)として利用 並加用途(原帰・集金製型)として製料の場合 を取用途(原卵が基準)として製料の場合 基形用途(原卵が基準)として利用 並加用途(原卵が基準)として利用 並加用途(原卵が)として利用 並加用途(原卵が)として利用 並加用途(原卵が)として利用 並加用途(原卵が)として利用 並加用途(原卵が)として利用 連加・	が報告では、日本の主要がある。 一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一人の一	第四十四年を開始したから連携サラルと、 地域から、内外は、一般のサインの発達されている。 1944年の1949年は、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本で
대표 - BM (April) 10 : - 100000	1937 1951 1952 1955 1956 1958 1957 1958 1959 1960	部の付加 実施配とらっている 起用用は「原稿・集金施型)として利用 基出用は「原稿・集金施型)として利用 は同様の構作・集金施型)として利用 を開発して発生した。 を開発して発生したで利用 を開発して発生したで利用 を開発して発生して利用 を開発して発生して利用 を開発していて利用 を開発していても、 を用せていても、 を用せていても、 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せ	が出生された関連の企業を入て第2。 地面上の九のの場ので、イン・マン・マン・マン・マン・ 知まれている。 知まれでいる。 がは、大部分は前のままが会 がないる。 がは、大部分は前のままが会 まされた。 からいる。 は、1000年で、大学の大学ので、 まされた。 は、1000年で、大学の大学ので、 は、1000年で、大学の大学ので、 は、1000年で、大学の大学ので、 は、1000年で、大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大学の大	第四十四年を開始したから連携サラルと、 地域から、内外は、一般のサインの発達されている。 1944年の1949年は、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本で
日本 - BM (A/POF) ## : 1888## ## (A/POF) ## 1888## ## (A/POF) ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## ## : 1888## #	1937 1951 1952 1955 1956 1958 1957 1958 1959 1960	部の付加 実施配とらっている 起用用は「原稿・集金施型)として利用 基出用は「原稿・集金施型)として利用 は同様の構作・集金施型)として利用 を開発して発生した。 を開発して発生したで利用 を開発して発生したで利用 を開発して発生して利用 を開発して発生して利用 を開発していて利用 を開発していても、 を用せていても、 を用せていても、 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せ	が報告を指数的の概要を入て電子。 即動性の内の機能を対している。 「動きないため、大部分は前の音音報会 を対している。 「かないたは、かないため、大部分は前の音音報会 「かないたは、かないため、大部分は前の音音報会 「ないたいため、大部の場合をは、中心の場合をは、中のサインが変 変えた。 「ないたいため、サイン・人のからリングのできないため、 「ないたいため、大部の場合を対している。 「ないたいため、大部の場合を対している。 「ないたいため、大部の場合を対している。 「ないたいたか、ナーンンンスを参加を 「ないたいたか、ナーンンンスを参加を 「ないたいたか、ナーンンンスを参加を 「ないたいたか、ナーンンンスを 「ないたいたか、ナーンンンスを 「ないたいたいたいた」。 「ないたいたいたいた」。 「ないたいたいたいたいたの。 「ないたいたいたいたいた」 「ないたいたいたいたいた」 「ないたいたいたいたいたいた。 「ないたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいた	第四十四年を開始したから連携サラルと、 地域から、内外は、一般のサインの発達されている。 1944年の1949年は、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本では、日本で
대표 - BM (April) 10 : - 100000	1937 1951 1952 1955 1956 1958 1957 1958 1959 1960	部の付加 実施配とらっている 起用用は「原稿・集金施型)として利用 基出用は「原稿・集金施型)として利用 は同様の構作・集金施型)として利用 を開発して発生した。 を開発して発生したで利用 を開発して発生したで利用 を開発して発生して利用 を開発して発生して利用 を開発していて利用 を開発していても、 を用せていても、 を用せていても、 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せている。 を用せ	が報告では、一般的な、一般的な、一般的な、一般的な、一般的な、一般的な、一般的な、一般的な	第2寸数単級人の少の運搬リスルグ、 2003年 7月3月、 第20年 77 公司会立て でした。1974年 70 年 7
日本・事故 (人の中) ※1 : 1888年	1937 1951 1952 1955 1956 1958 1957 1959 1960 1960	部の付加資訊股となっている 証別用途(原稿・集会施設)として利用 証別用途(原稿・集会施設)として利用 証別用途(原稿・集会施設)として額利的用。 持衛 証別用途(原稿)として額利的用。 証別用途(原稿)として利用 証別用途(原稿)として利用 新知用途(原稿)として利用 新知用途(原稿)として利用 新知用途(原稿)として利用 新知用途(原稿)として利用 新知用途(原稿)として利用 新知用途(原稿)をして利用 新知用途(原稿)として利用 新知用途(原稿)をして利用 新知用途(原稿)をして利用 新知用途(原稿・現金施設)として利用 新知用途(原稿・現金施設)として利用 新知用途(原稿・現金施設)として利用	が報告を指数的の概要を入て電子。 即動性の内の機能を対している。 「動きないため、大部分は前の音音報会 を対している。 「かないたは、かないため、大部分は前の音音報会 「かないたは、かないため、大部分は前の音音報会 「ないたいため、大部の場合をは、中心の場合をは、中のサインが変 変えた。 「ないたいため、サイン・人のからリングのできないため、 「ないたいため、大部の場合を対している。 「ないたいため、大部の場合を対している。 「ないたいため、大部の場合を対している。 「ないたいたか、ナーンンンスを参加を 「ないたいたか、ナーンンンスを参加を 「ないたいたか、ナーンンンスを参加を 「ないたいたか、ナーンンンスを 「ないたいたか、ナーンンンスを 「ないたいたいたいた」。 「ないたいたいたいた」。 「ないたいたいたいたいたの。 「ないたいたいたいたいた」 「ないたいたいたいたいた」 「ないたいたいたいたいたいた。 「ないたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいた	第四寸調整等級人の分型機関ラス化。 開始の、円分別、高的ではつきないでしていました。 日本の、日本の、日本の、日本の、日本の、日本の、日本の、日本の、日本の、日本の、

5 . 主な発表論文等

〔学会発表〕(計1件)

鯵坂徹 Modern movement of Junzo Sakakura and Japanese traditional beauty, DOCOMOMO INTERNATIONAL, 2014年9月25-26日(ソウル 韓国).

[図書](計1件)

鯵坂徹 日本近現代のリビングへリテージ, 世界建築史論集(中川武先生退任記念論文 集)・中央公論美術出版, Vol.日本・アジ ア篇, pp.159-175 (2015)

6.研究組織

(1)研究代表者

鯵坂 徹(AJISAKA, Toru)

鹿児島大学・大学院理工学研究科・教授

研究者番号:80709527

(2)研究協力者

增留麻紀子(MASUDOME, Makiko)

鹿児島大学・大学院理工学研究科・助教

研究者番号:90723007